



週間情報



No.2936

発行日 平成29年9月19日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

消防本部の動き

行事

◆ 「消防子どもフェスタ2017」を開催

宝塚市消防本部（兵庫）

宝塚市消防本部東消防署では、平成29年8月26日（土）、親子で楽しめるイベント「消防子どもフェスタ2017」を開催しました。

会場では、消火体験、煙道避難体験、子ども用救助・救急・防火服を着ての記念撮影、応急手当体験、消防訓練の展示などを行いました。

当日は、あいにくの曇り空でのスタートでしたが、約750名の方が来場しました。来場者の方々から「消防署の普段見れないところがたくさん見れて楽しかった!」「また来年も来たい!」などの声が聞かれ、消防行政へ理解を深める良い機会となり、市民の防火意識の向上を図ることができました。



【フェスタの様子】

◆ 「救急の日2017」を開催

南越消防組合消防本部（福井）

南越消防組合消防本部では、平成29年9月3日（日）、ショッピングセンターエスカモール武生楽市において、救急車が到着するまでの空白時間をなくすための応急手当普及啓発及び口頭指導の重要性について、地域住民に理解を深めていただくことを目的に「救急の日2017」を開催しました。

当日は、「口頭指導がつなぐいのちのリレー」と題し、ご来場された方々に分かりやすく職員による寸劇を披露したほか、越前市消防団式部さくら分団による救急車適正利用の広報活動を実施しました。

今後も、このようなイベントや講習会等を通じて応急手当の必要性を訴えていきます。



【寸劇の様子】



【広報活動の様子】

◆ 「救急の日2017」を開催

県央地域広域市町村圏組合消防本部（長崎）

県央地域広域市町村圏組合大村消防署では、平成29年9月3日（日）、大村市女性消防団とともに、イオン大村ショッピングセンターの協力を得て、救急車適正利用の広報、応急手当普及啓発を目的に「救急の日2017」を開催しました。

救急車の展示、AED講習、防火衣の試着などの各コーナーを設置し、多くの市民とふれあいながら救急に関する知識を深めました。また、大村市マスコットキャラクター「おむらんちゃん」の登場に子ども達は大喜びでした。



【イベントの様子】

◆ 救急フェアを開催

中城北中城消防本部（沖縄）

中城北中城消防本部では、平成29年9月9日（土）、避難・物資・医療・エネルギー供給の防災拠点としてのまちづくりを行っている「ライカムエリア」において、医療拠点からドクターカー及び医療スタッフの参加協力を得て救急フェアを開催しました。

フェアでは胸骨圧迫、AED体験、ぬり絵、ペーパークラフト等、様々なブースで消防・救急について楽しみながらより深く知ってもらう事ができました。来場した子ども達に「将来、一緒に仕事ができたらいいね。」と話すと「消防士になりたい。」と夢を語ってもらえました。



【フェアの様子】

◆ 第38回九都県市合同防災訓練を実施

匠瑤市横芝光町消防組合消防本部（千葉）

匠瑤市横芝光町消防組合消防本部では、平成29年8月26日（土）、そうさ記念公園及び長谷浜津波避難タワーを会場として、第38回九都県市合同防災訓練を実施しました。

この訓練では、千葉県東方沖を震源とする震度6強の地震が発生し、建物倒壊や道路損壊等の被害が多数発生している想定の中、倒壊家屋の狭所空間に取り残された3名の要救助者を、広域応援消防本部と連携した救助・救急活動により、医療機関緊急対応ユニットへ要救助者を引継ぎ、消防ヘリによる長距離搬送など一連の災害活動訓練を実施しました。

今後も、大規模災害に円滑に対応できるよう関係機関相互の連携強化を図ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 救助用ゴムボート操船及び救出活動訓練を実施

千曲坂城消防本部（長野）

千曲坂城消防本部では、平成29年8月29日（火）からの3日間、日本三大車窓に数えられ日本の棚田百選及び重要文化的景観にも認定された「^{おぼすて}姨捨」地域にある八幡大池において、今年度8月に新規導入した資機材搬送車による運搬訓練並びに救助用ゴムボートを用いた操船及び救出活動訓練を実施しました。

この訓練は、昨今増加している水難事故を踏まえ、迅速な出動態勢の構築、要救助者の安全・確実・迅速な救出のための連携強化及び水難事故対応技術の向上を目的に実施しました。

基本的な操船要領から船上での救出活動など消防隊、救助隊及び救急隊の垣根を越えてフレキシブルに活動が展開できるよう各隊員の連携が深められ効果的な訓練となりました。



【訓練の様子】

◆ 京都舞鶴港クルーズ客船総合防災訓練を実施

舞鶴市消防本部（京都）

舞鶴市消防本部では、平成29年9月2日（土）、京都舞鶴港において、外国船籍のクルーズ客船による初めての「京都舞鶴港クルーズ客船総合防災訓練」を実施しました。

本訓練は、本年、京都舞鶴港におけるクルーズ客船の寄港数が過去最大となることを踏まえ、災害発生時の港湾における防災関係機関の連携強化を図ることを目的に、京都府港湾局主催により、舞鶴海上保安部及びクルーズ会社と合同で実施したもので、「舞鶴港に入港したクルーズ船内で火災が発生、船内の消火活動により火災は鎮火したが、負傷者が多数確認された。」との想定で訓練を行いました。

訓練では、海上保安部のヘリによる負傷者の吊上げ救助や救命艇による負傷者搬送、船医及び消防隊によるトリアージ等を行い、有事の際の関係機関との連携を確認しました。

また、当日は同会場において並行して行われていたイベントの来場者やクルーズ客船の乗客など多数の方に訓練をご覧いただき、安全・安心な京都舞鶴港をPRすることができました。



【訓練の様子】

◆ 医療チームと合同で準集団災害救急訓練を実施

三木市消防本部（兵庫）

三木市消防本部では、平成29年9月5日（火）、当市消防本部訓練場において、兵庫県立加古川医療センター医療チームと合同で、準集団災害救急訓練を実施しました。

訓練では、車両3台による交通事故で多数負傷者が発生したことを想定し、救急隊、指揮隊、救助隊そして医療チームのドクターカーなど全8隊が順次出動し、救急現場における各部隊の連携を確認しました。

また、訓練検証会では、集団災害における情報伝達の難しさなどが報告され、全隊員が共通認識を得ることができました。

今後、集団災害が発生した場合に現有の消防力を最大限に発揮するため、医療機関と継続的に訓練を実施し連携強化を図ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 廃車を活用した救急・救助訓練を実施

宇城広域連合消防本部（熊本）

宇城広域連合消防本部では、平成29年9月9日（土）、管内にある自動車リサイクル会社「株式会社キタグチ」において、廃車を活用した救急救助訓練を実施しました。

訓練では、廃車4台にそれぞれダミーを入れ、さらに交通事故現場と同じように車両を潰し、横転や正面衝突させるなどリアルな現場を再現しました。北・南消防署から参加した各隊は、指揮隊の指示のもと連携しながら車内からダミーの救出を行いました。

訓練は、事故内容を知らせないブラインド方式で行ったため、緊迫した環境のなか実災害さながらの有効な訓練となりました。

訓練終了後には、廃車を使用したエアバッグ作動試験も行いました。この試験では、エアバッグ作動時の衝撃を確認するためダミーをシートベルト未着用で運転席ハンドルや助手席ダッシュボードに倒れかけている状態でセットし、この状態でエアバッグを作動展開させたところダミーが弾き飛ばされるほどの衝撃があることを参加者全員が確認しました。この試験により、改めてエアバッグ未作動時の活動の危険性や安全管理の重要性を再認識しました。



【訓練の様子】



【エアバッグ作動試験の様子】

研 修 等

◆ 第3方面本部救急業務研修会を実施

印西地区消防組合消防本部（千葉）

印西地区消防組合消防本部では、平成29年8月28日（月）、印旛地域救急業務MC協議会検証医の日本医科大学千葉北総病院救命救急センター益子一樹医師、四街道市消防本部指導的立場の救急救命士、当消防組合の指導救命士参加のもと、第3方面本部救急業務研修会を実施しました。

研修会には約90名が参加し、事例検討会や指導救命士による救急車同乗指導をテーマに実施しました。検証医師及び指導救命士から救急活動について貴重な意見をいただき、フリーディスカッションでは参加者から多数傷病者事案の活動や医師連携について活発な質問が飛び交い、有意義な研修会となりました。

研修会終了後、救急車医師同乗指導及び署内検討会を実施、医師と救急隊員との顔の見える関係を構築することができ、今後も医療機関との連携強化を図るべく研修会を開催していきます。



【研修会の様子】

◆ 救急事例検討会を開催

小樽市消防本部（北海道）

小樽市消防本部では、平成29年8月30日（水）、小樽市立病院2階講堂において、平成29年度第1回小樽・後志救急事例検討会を開催しました。

事例検討会は、病院関係者、消防関係者約100名が出席し、症例を通して情報共有することで連携をより深め、地域の救急医療の充実をはかることを目的として行いました。

事例内容は、心肺停止状態で小樽市立病院に搬送された方が完全に社会復帰できた4症例について、当日対応した救急隊が発表し、搬送された後の処置から退院するまでの経過内容について、担当医師から説明がありました。また、質疑応答では、救急の搬送に関することや、指令室の対応について情報を共有することができました。



【検討会の様子】

◆ 救急隊員研修会を実施

稲敷広域消防本部（茨城）

稲敷広域消防本部では、平成29年8月30日（水）及び31日（木）、平成29年度第3回救急隊員研修会を実施しました。

研修会は、観察、判断、処置及び情報伝達能力の向上を目的としたブラインド型シミュレーション訓練とし、実際の現場活動のような臨場感のなか実施しました。症例ごとに検討会を実施し、見学者からの質疑や指導救命士の助言等、活発な意見交換がされるとともに、医師より医学的観点から助言をいただきました。

この訓練で学んだことや感じたことを現場で生かせるよう、訓練を継続し、救急技術及び知識の向上に努めます。



【研修会の様子】

◆ 救急隊長研修を実施

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部（秋田）

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部では、平成29年9月4日（月）及び5日（火）、救急隊長研修を実施しました。

今後起こりうる可能性のあるリスクを正しく理解しマネジメントすることにより、救急業務を円滑に遂行することを目的とした研修で、出場ルートの間違いや途上の事故等のトラブルが発生したことを想定し、シミュレーション形式で行いました。事例ごとにディスカッションし、救急隊の対応の仕方や組織の対応について全員で共有しました。

また、この研修内容を全救急隊の共通認識とし、迅速・適正に対応することを確認し研修を終えました。



【研修の様子】

その他

◆ 大津市オリジナル訓練「大津版災害時ファーストコンタクト」を考案

大津市消防局（滋賀）

大津市消防局では、災害の初期対応を担っていただく自主防災会に向けた訓練「大津版災害時ファーストコンタクト」を考案しました。

この訓練は、消防活動では当たり前とされる「安全管理」の視点を全面的に取り入れ、災害時にはチームとして活動することが大切であることを認識していただける内容としています。

訓練では、大地震により倒壊家屋に要救助者がいることを想定し、駆けつけた住民が「二次災害は絶対に起こさない・起こさせない」という強い覚悟をチームとして持ち、危険排除・捜索・重量物持ち揚げなど“安全管理の徹底”を図りながら活動する実災害をイメージできる内容としました。

この訓練を通じて、地域の人々が最初の接触・情報交換・助け合いを始めるきっかけとなり、被災者への最初の救いの手を差し伸べる地域の力を持っていただきたいと考えています。そして、地域における共助体制の確立につなげていきたいと考えています。

概要動画（9分15秒）を You Tube (<https://www.youtube.com/watch?v=1EjNxeve1II>) チャンネルに掲載しています。



【You Tube 動画】



【訓練の様子】

◆ 露店関係者に出向き型防火防災訓練を実施 ～楽しい夏休みの思い出をつくるために！～

東京消防庁（東京）

東京消防庁葛西消防署では、平成29年7月から8月にかけて、管内52の町会・自治会で夏祭りが開催され、会場で露店を開設する関係者を対象に、火気管理の指導及び出向き型防火防災訓練を実施しました。

署員は露店の関係者に対し「目で見ると火災を起こさないためのチェックポイント」を活用して、火気使用器具等の適切な使用について指導を行ったあと、露店に設置している消火器を使い、消火器の諸元・性能を説明し、最後に模擬消火器で初期消火訓練を実施しました。

主催している町会長から「実際に模擬消火器を使用して訓練して頂き、消火器の使い方がわかりやすく、すごく良かった。」との声がありました。今後とも引き続き地域に密着し、災害の未然防止を図っていきます。



【指導の様子】

情報提供

◆ **全国消防保険サービス株式会社事務職員の募集**

全国消防保険サービス株式会社

全国消防保険サービス株式会社は、一般財団法人全国消防協会福利厚生事業の損害保険取扱事務を行う保険代理店です。

次の条件で、事務職員を公募します。

1 従事業務

- (1) 総務（各種文書、資料作成、データ管理等）
- (2) 経理

2 採用予定日

平成30年4月1日(ただし、当初6ヶ月間試用期間とします。)

3 給与等

- (1) 初任給（平成29年度実績※調整手当含む）

大卒：219,720円

短大・専門：190,200円

高卒：178,680円

なお、一定の基準を満たす学歴、職歴等がある場合は、初任給を加算します。

- (2) 賞与

4. 2月分(予定)

- (3) その他

上記のほか、扶養手当、通勤手当、住居手当、調整手当、超過勤務手当等が支給されます。

4 応募手続

詳細につきましては、当社ホームページ <http://www.zenshoho.co.jp/> 【職員採用について】を参照ください。

【問い合わせ先】

全国消防保険サービス株式会社

担当：総務部 総務課 浅本

TEL：03-3234-1331（代表）

◆ 「10年たったら とりカエル」スペシャルサイトの改訂について

一般社団法人日本火災報知機工業会

一般社団法人日本火災報知機工業会では、平成26年度よりキャラクター「とりカエル」を住宅用火災警報器の「10年たったら とりカエル」の交換促進を啓発としてホームページ（スペシャルサイト）およびリーフレットに掲載を行ってきました。

今回、一般の方からの問い合わせや消防本部様からの確認等がありました、住警器のブザー音についてもチェックできるコーナーを設けました。平成29年9月1日より「10年たったら とりカエル」のスペシャルサイトを大幅に改訂いたしましたのでサイトを閲覧いただきまして、今後の広報活動の一つのアイテムとしてご活用ください。

【改訂内容】

1 LINE スタンプの公開

24種類の「とりカエル」キャラクターによるLINEスタンプを作成しました。
購入可能となっています。24点一式 120円で購入できます。

2 ブザー音チェックコーナーの公開

15社の代表的なブザー音タイプの住宅用火災警報器の外観写真及び「火災」・「故障」・「電池切れ」のブザー音を聞くことが可能です。

また、スマートフォンでも聞くことができます。

3 第6回マンガの公開

今回のテーマは、「電池切れの合図って？」となっており、マンガからもブザー音チェックコーナーへリンクしています。

4 Twitterがスタート

「とりカエル」によるTwitterをはじめました、これからイベント等があった場合につぶやいていきますので、要チェックしてください。



【[スペシャルサイトトップページ](#)】



【LINEスタンプ】

【問い合わせ先】

一般社団法人日本火災報知機工業会
担当：技術部 佐島 和夫
TEL：03-3831-4318
FAX：03-3831-4365

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail: weekly@fcaj.gr.jp